

最優秀賞

神奈川県社会福祉協議会長賞

「バリアフリーって何だろう」

開成町立開成南小学校

六年 井上

温

最近ニュースで「バリアフリー」という言葉をよく聞きます。僕は、道路のデコボコやお店の階段などで高齢者や身体の不自由な人、ベビーカーを押しているお母さん達が困っているのを見た事があります。「どうにかならないのかな？」と思った事があり、バリアフリーについて興味を持ち今回調べてみようと思いました。

その人達にとってバリア（障へき）をなくすことを「バリアフリー」といいます。車いすやベビーカーを使っている人がスロープやエレベーターを利用し、別の階へ行ける事はよく知られています。目の不自由な人が自力で外に出て目的地にたどり着くためには、点字ブロックや音声情報があり、耳の不自由な人には手話・文字や絵の情報がありません。そして一番

おどろいた事は、今までバリアとは階段や急な坂、せまい通路だけだと思ってましたが、まわりの人達の無知によって、偏見にさらされ障害がある人たちへの心ない言葉、視線、無関心など、人々の意識の中にあるものもバリアだと知りました。障害がある人は何も出来ないという考え方もそのひとつです。このような考え方こそが、障害がある人達が力を発きできないことにつながっています。

ヘレン・ケラーは『見えない、聞こえない、話せない』という三つの障害がありながらも、「ふつうの方々と同じように美しいもの、楽しい事にふれることはできる。暗闇とちんもくの中にも、無限の美しさを見いだすことができる」と自伝で語っています。

また、障害のある子をもつお母さんは、足に不自由があり、何度もあきらめずに自転車に挑戦する我が子の姿を見て「勇気のある子」と表現しました。障害のことよりも、めげずに頑張り続ける気持ちに、お母さんは人間として感動したそうです。

『障害は、不自由であっても不幸ではない』この言葉がとても印象強く心に残っています。

バリアフリーではない事や場所が世の中にはまだまだたくさんあります。困っている人を見かけたら手伝えるような人になりたいです。もしそこまでできなくても「道路や点字ブロックの上に荷物を置かない」「店員や駅員に助けを求める」ことはできると思います。障害がある人達と共に暮らしやすい社会になれるよう心がけていきたいです。